

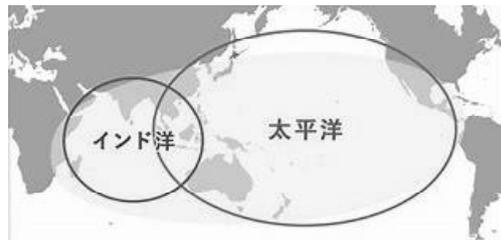
# インド太平洋をめぐる国際関係

—理論研究から地域・事例研究まで

ISBN978-4-8295-0873-2

永田伸吾・伊藤隆太編著 A5判 248頁 本体 2,700円

現在、インド太平洋において米中覇権競争を軸として、「自由で開かれたインド太平洋」戦略を推進する米国率いる自由民主主義諸国と、一帯一路構想を推進する中国との間で、国際秩序をめぐる戦いが繰り広げられている。



本論文集は、動態的国際政治現象としての「インド太平洋」概念の形成・拡大のダイナミズムを、国際関係論における理論研究と地域・事例研究の視点から、多角的にアプローチするもの。

現象としての「インド太平洋」をどのように捉えるか

◎永田伸吾(金沢大学)

インド太平洋戦略の地平——地理を超えて

◎墓田 桂(成蹊大学)

構造的リアリズムと米中安全保障競争

◎野口和彦(群馬県立女子大学)

古典的リアリズムと中国の台頭

◎伊藤隆太(広島大学)

インド太平洋の「地域的安全保障共同体」と日本のアイデンティティ

◎岡本 至(文京学院大学)

NATOの対中戦略と「インド太平洋」のグローバル化

◎小田桐 確(関西外国語大学)

大戦略としての「インド太平洋」概念を支える防衛外交——主体としての日・豪・欧の空軍種の役割

◎永田伸吾

インド太平洋研究の多層化——地理、イシュー、理論

◎伊藤隆太

## 現代日本の資源外交

—国家戦略としての「民間主導」の資源調達

日本エネルギー経済研究所主任研究員

柳沢崇文著 A5判 224頁 本体 3,200円

ISBN978-4-8295-0872-5



石油危機以降、エネルギー安全保障が国家的課題となったにもかかわらず、なぜ日本のエネルギー調達は「民間主導」が維持されてきたのか？中国との資源獲得競争、ウクライナ危機による世界的なエネルギー供給不安の中、日本の資源外交はどうあるべきか？

序章 問題の所在

第1章 仮説と分析枠組

第2章 事例分析①日本とイラン・IJPCプロジェクト

第3章 事例分析②日本とソ連・サハリン天然ガスプロジェクト

第4章 事例分析③日本とイラン・アザデガン油田プロジェクト

第5章 事例分析④石油危機以降のドイツの資源調達

第6章 事例分析⑤石油危機以降のイタリアの資源調達

終章 結論

1月下旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 1月10日(水) です

FAX 03-3813-4615

**芙蓉書房出版**  
 〒113-0033  
 東京都文京区本郷3-3-13  
<http://www.fuyoshobo.co.jp>  
 TEL. 03-3813-4466  
 FAX. 03-3813-4615

発行	芙蓉書房出版	1月新刊	注文数	注文者
	インド太平洋をめぐる国際関係	本体 2,700円	部	
	現代日本の資源外交	本体 3,200円	部	